



# さんぽっぽ ~ 景観だより ~

~ 第29号(27.4) ~



※「さんぽっぽ」は、小学生の皆さんに2か月に1回発行している「景観だより」です。

## ご入学、ご進級おめでとうございます。

さわやかな風がふく春、桜の季節が終わると、青い空に鯉のぼりがゆらゆらと泳ぎはじめます。本市では毎年、『鯉のぼりフェスタ』が行なわれていて、川内川の河川敷で約200匹の鯉のぼりが泳いでいるのを見たことがある人もいます。



「鯉のぼりフェスタ」は平成12年からはじまりました。

鯉のぼりの歴史は、江戸時代から始まり、武家の間では男の子が生まれると、玄関にのぼりなどを飾り、子供の健康や出世を願いました。最初は武家の家だけで行なわれていた風習でしたが、やがて一般にも広まりました。



なぜ、鯉の絵が描いてあるのかを調べてみると、『流れが急な竜門と呼ばれる滝があり、その滝を登りきった魚だけが竜になれるといわれ、その滝を鯉だけが登りきり竜になったという』という中国の伝説に由来しているようです。



鯉のぼりの上についてるカラカラ回るかざりは、矢車と言います。魔よけの意味があるそうです。その下は五色の吹流し。これは家をあらわし、お父さん鯉の上につけられています。

## 里町武家屋敷跡の玉石垣



景観重要資産とは、地元地区のシンボルやイメージとなっている景観資源で、地域の人たちから親しまれ、大事にされている場所(石橋や石塔、滝)などのことです。



## ~ 景観重要資産第6号 ~ H23.3.28指定

今年3月16日に国定公園に指定された甞島。里町にある玉石垣は、丸い石を丹念に積み上げたもの。今もきれいに手入れされ、7月頃にはカノコユリも咲きます。



この玉石垣は、1個の石が7個の石に囲まれて積みまっています。